

会員一覧

アイジー工業株式会社

〒999-3716 山形県東根市蟹沢上綱目1816-12
Tel 0237-43-1830 / Fax 0237-41-1830

旭トステム外装株式会社

〒135-0001 東京都江東区毛利1-19-10
Tel 03-5638-5111 / Fax 03-5638-5118

ケイミュ株式会社

〒540-6013 大阪府中央区城見1-2-27 クリスタルタワー13階
Tel 06-6945-8081 / Fax 06-6945-8071

株式会社チューオー(販売元:ニチハ株式会社)

〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町13-2
Tel 0289-76-3261 / Fax 0289-76-3267

東邦シートフレーム株式会社 [ファインメタル事業部]

〒276-0022 千葉県八千代市上高野1812
Tel 047-484-0100 / Fax 047-484-2244

日新製鋼建材株式会社 [塗装建材営業部]

〒135-0016 東京都江東区東陽町3-23-22
Tel 03-5635-6130 / Fax 03-5635-6139

株式会社淀川製鋼所

〒541-0054 大阪市中央区南本町4-1-1
Tel 06-6245-1256 / Fax 06-6245-2257

YKK AP株式会社

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地 YKK80ビル
フリーダイヤル 0120-72-4134

金属サイディング 外壁リフォーム 施工マニュアル

モルタル/窯業系サイディング
既存壁重ね張り工法編

 日本金属サイディング工業会

00 INDEX

01 本マニュアルの適用建築物

1-1 適用範囲

建物種類・構造・規模(高さ制限)・下地間隔・耐震性

1-2 外壁リフォーム工事に関する法規制

石綿則・建設リサイクル法・産業廃棄物処理法
防耐火認定上の扱い

1-3 施工上の禁止事項

新築施工の手引きからの引用・重ね張り工法特有の禁止事項

02 本マニュアルの概要

2-1 概要

モルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法の
参考例・取扱い上の注意

2-2 金属サイディングの標準工法

通気構法

2-3 工法選定のフローチャート例

フローチャート

03 モルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法

3-1 モルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法の実施手順

工事全体の流れと施工手順
金属サイディング工事

3-2 現地調査

点検実施例

3-3 既存木造下地の胴縁留め付け保持力の確認

目的・チェック方法例・確認部位例

3-4 納まり各部の点検

設備機器(壁付け物干し等)との取り合い事前確認

3-5 防水紙の取り付け

漏水部位の補修・防水紙の施工

3-6 モルタル既存壁への施工

通気胴縁の施工、本体・役物の施工

3-7 窯業系サイディング(釘留め工法の横張り)既存壁への施工

通気胴縁の施工、本体・役物の施工

3-8 点検・清掃・補修

タッチアップ等の注意事項等

04 維持管理

金属サイディングの維持管理について
メンテナンスマニュアルの紹介

参考資料
各チェックシート
施工例写真

01 本マニュアルの適用建築物

1-1. 適用建築物

本マニュアルの適用建築物は次の通りです。

適用建築物※	既存外壁の種類	モルタル又は窯業系サイディング(釘留め工法の横張り)
	建物の種類	木造住宅
	建物の構造	木造軸組工法又は木造枠組壁工法
	建物の規模	建物高さが13m以下
	下地の間隔	「柱・間柱」の間隔が500mm以下
	耐震性	新耐震基準(昭和56年)に適合

※本マニュアルの適用外の建築物であっても、会員メーカー指定の工法でリフォーム可能な場合がございますので、会員メーカーにお問い合わせください。


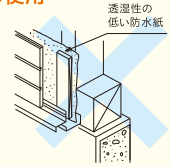
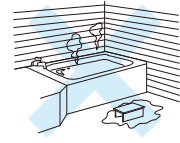
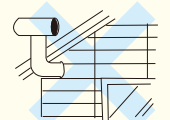
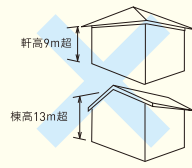
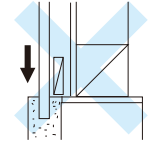
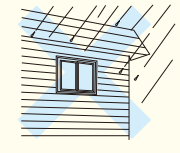
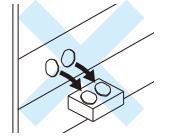
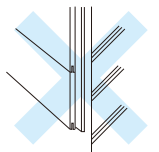
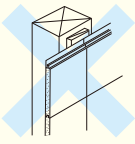
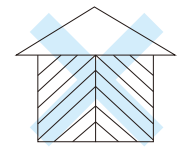
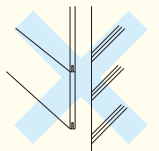
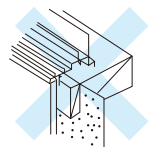

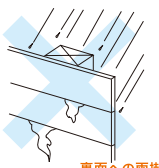
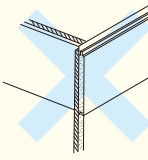


1-2. 外壁リフォーム工事に関する法規制

外壁リフォーム工事に際しては、建築基準法令や労働安全衛生法等、関係する法律や規則を遵守する必要があります。リフォーム工事に伴い発生する廃棄物の処理は、石綿障害予防規則、建設リサイクル法や産業廃棄物処理法に基づき、各地域の行政からの指示に従って適切に処理してください。
また、リフォーム後に防耐火構造認定の変更に該当する場合がありますのでご注意ください。



1-3. 施工上の禁止事項

次のようなご使用はトラブルの原因となります。金属サイディングは、外壁以外に使用しないでください。

<p>1 耐火構造への施工</p> <p>耐火構造、1時間準耐火構造が要求される場所(建物)への施工はできません。</p> <p>耐火ボード等を下地としても上記地域には施工できません。(一部対応商品もあります。)</p>  <p>耐火構造</p>	<p>6 透湿性の低い防水紙の使用</p> <p>透湿性の低い塩ビフィルム等を張るのは、お避けください。結露の原因となります。 ※透湿防水シートをおすすめします。</p>  <p>透湿性の低い防水紙</p>	<p>11 外装用途(壁)以外での使用および施工</p> <p>外装用途以外での施工は、(異常な水分や熱等の影響を受ける場所への施工)金属サイディングの反り、変形の原因となります。</p>  <p>外壁以外への施工</p>	<p>16 金属サイディングに高温部(管)が直接接触する部位への施工</p> <p>給湯配管、煙突等に直接接触したり、蒸気が直接本体に当たる部位への施工は、お避けください。熱の影響で反り、変形、表面塗膜の耐久性の低下等の原因となります。</p>  <p>高温部への施工</p>
<p>2 軒の高さ9m、棟の高さ13mを超える建築部位への施工</p> <p>風圧により、かん合部・釘打部のゆるみが生じ、落下のおそれがあります。</p>  <p>軒高9m超 棟高13m超</p>	<p>7 基礎部のモルタルへの埋込み施工</p> <p>塗膜剥離、腐食、反り、変形の原因となります。</p>  <p>モルタルへの埋込み施工</p>	<p>12 傾斜のあるパラペットへの施工</p> <p>垂直の壁面に比べ、屋根材に近い過酷な条件となり、表面塗膜の劣化速度を速める原因となります。また、実部からの伝い水により金属サイディング本体に含水し、反り、変形の原因となります。</p>  <p>パラペット施工</p>	<p>17 金属サイディング本体への後付付帯物の取り付け</p> <p>サイディング本体では保持力を確保できずサイディングの破損や付帯物の落下の原因となります。</p> 
<p>3 ALC下地(既存壁)への施工</p> <p>ALC既存壁の劣化等により胴縁施工用釘の引き抜き強度が確保できません。</p>  <p>ALC下地</p>	<p>8 役物未使用(ジョイナー・入隅部)の突付け施工</p> <p>役物未使用の突付け施工では、突付け部より金属サイディング本体に雨水等が含水し、反り、変形の原因となります。</p>  <p>役物なし施工</p>	<p>13 斜め張り施工</p> <p>金属サイディング本体実部からの伝い水により、役物部を通して本体内部に含水し、変形の原因となります。</p>  <p>斜め張り</p>	
<p>4 直張り施工</p> <p>躯体および既存壁の不陸等により金属サイディング本体の実部が変形し、施工できなくなります。また、外観が見苦しくなります。</p>  <p>直張り</p>	<p>9 開口部(サッシ等)の開口部役物なし施工</p> <p>役物なしで施工しますと、サッシ廻りの伝い水等により、サッシ廻りが汚れたり、金属サイディング本体への含水により、反り、変形の原因となります。</p>  <p>役物なし施工</p>	<p>14 縦目地部の揃わない乱張り施工</p> <p>ジョイナー等の施工不良の原因となり外観が見苦しくなります。また、役物より伝わった水が本体内部へ含水し、反り、変形の原因となります。</p>  <p>乱張り</p>	
<p>5 金属サイディング裏面が雨・風の影響を直接受ける部位への施工</p> <p>裏面はアルミ箔等となっており、裏面からの含水や乾燥の繰り返により、反り、変形の原因となります。</p>  <p>裏面への雨掛かり</p>	<p>10 切断部の露出施工</p> <p>切断部の露出施工は硬質プラスチックフォームの劣化および、金属サイディング本体への含水により反り、変形の原因となります。</p>  <p>役物なしでの切断部の露出</p>	<p>15 集合煙突への施工</p> <p>煙突内で発生した水分や熱の影響により、金属サイディングの反り、変形の原因となります。</p>  <p>煙突施工</p>	

02 本マニュアルの概要

2-1. 概要

本マニュアルはモルタル/窯業系サイディング既存壁木造住宅への金属サイディングを用いた重ね張りリフォーム工事についてまとめたものです。

基本的な施工基準や施工方法の参考例について解説します。紹介する施工方法について保証するものではありません。

- ◎施工基準、施工方法の詳細は各会員メーカーにご相談ください。
- ◎適用建築物の建築年次や老朽具合によっては本マニュアルのリフォーム工事を行えない場合があります。下地の老朽化や劣化などについては工事請負者の責任で実施可否判断を行ってください。
- ◎工事請負判断や施工方法の選定、工事内容については、依頼者と工事請負者の双方で十分な意見交換を行い、工事請負者の責任でリフォーム工事を実施してください。

2-2. 金属サイディングの標準工法

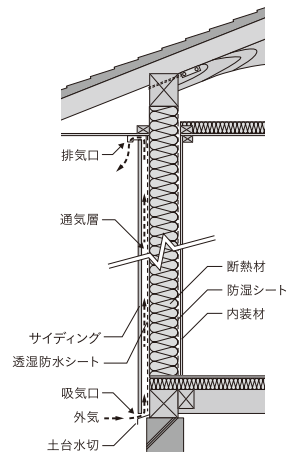
日本金属サイディング工業会では、壁体内結露を抑止するため、また住宅の長期耐久性と快適性を維持・向上させるため「通気構法」を標準工法としています。

■ 通気構法のしくみ

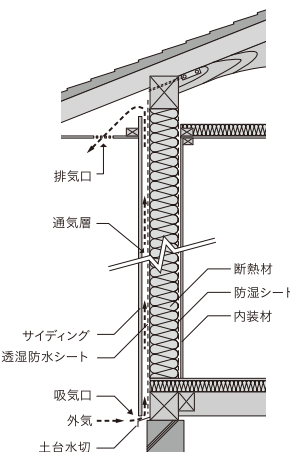
通気構法は、壁体内の水分(湿気)を外部へ逃がす「透湿防水シート」を躯体に張り、「通気層」を設けるため15mm~20mm程度の胴縁を取付け、その上から外壁材を取付けます。その際に外気を取り入れるための「吸気口」と通気層を流れる空気と室内の水分(湿気)を屋外に放出する「排気口」を設けることで「通気構法」となります。

又、「吸気口」は土台水切部分とするのが一般的ですが、「排気口」については建物の形状や換気の有無により、下図のようなとり方があります。土台部・下屋根部などの胴縁は防錆処理を行ったもののご使用をおすすめします。

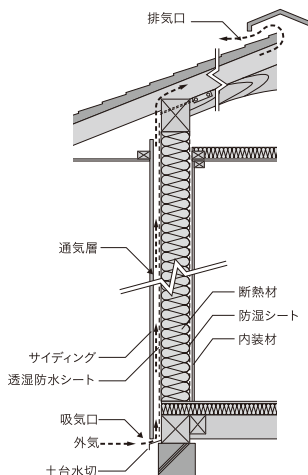
①通気軒天部材からの湿気などの排出



②軒天材(有孔板)からの湿気などの排出



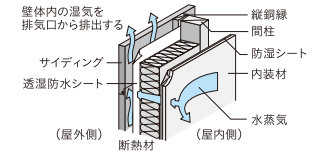
③小屋裏からの湿気などの排出



■ 通気構法3つの効果

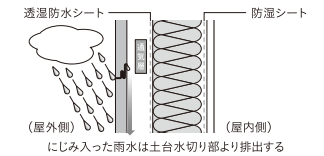
①壁体内結露を抑える効果(冬季)

冬場室内を暖めると空気中に水蒸気が多量に放散されます。また、なべ・やかん・浴室・人からも水蒸気が放散されるため、これらの水蒸気が幾分か内装材をぬけて壁体内へ侵入します。壁体内が密閉状態ですと、水蒸気の逃げ場がなく、壁体内で滞留し外気温で冷やされ壁体内結露をおこす原因になります。「通気構法」は壁体内に侵入した水蒸気を外気に逃がすことで、壁体内結露を抑えます。



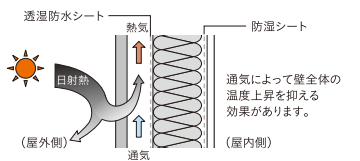
②室内側への雨水の浸入を抑える効果(台風・強風雨)

台風・強風雨時には、サイディングの接合部などから雨水が浸入する場合があります。万一雨水がにじみ込んだ場合には、通気層を確保することで排出します。また、躯体面には雨水は通さず水蒸気は通す透湿防水シートを使用していますので、2重の防水効果を持っています。



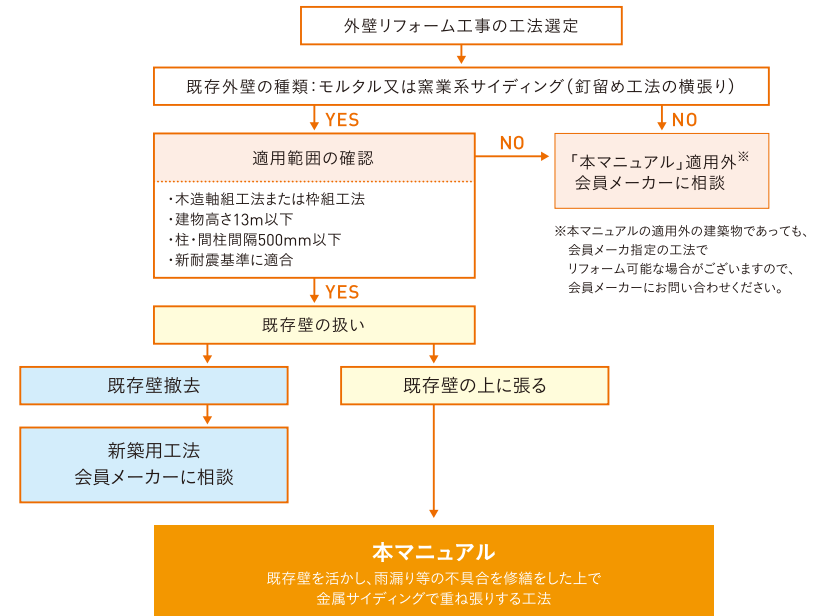
③日射熱を遮熱する効果(夏季)

夏場直接外壁が受ける日射による建物内部への熱の伝導を通気による遮断・放散し、室内温度の上昇を抑えます。



※リフォーム重ね張り施工の際には必ず胴縁をご使用ください。

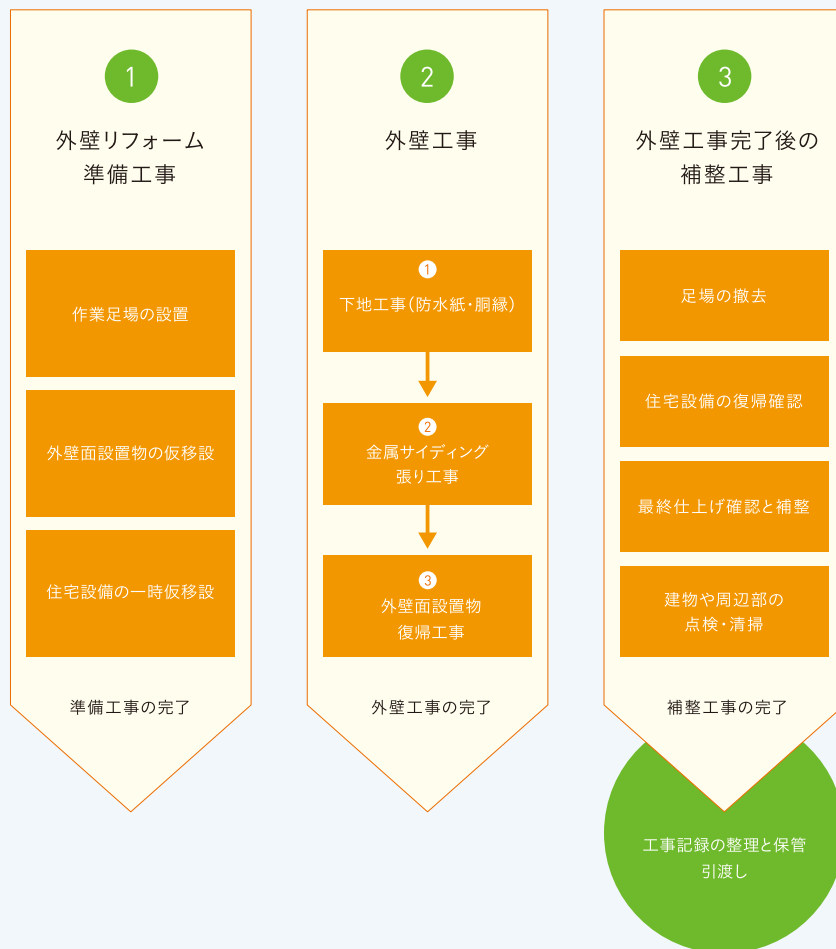
2-3. 工法選定のフローチャート例



03 モルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法

3-1.モルタル/窯業系サイディング既存壁への金属サイディングの重ね張り工法の施工手順

I 工事全体の流れと施工手順 (予め既存壁の劣化状況の点検と補修を行ってください。)



II 金属サイディング工事

■ 金属サイディング張り施工手順

本マニュアルに特に記載のない一般部については、日本金属サイディング工業会発行の「施工の手引き」・「住宅用改修マニュアル」をご参照ください。

施工手順	施工ポイント
既存壁の劣化状況の点検	既存壁を点検し補修方法や補整スケジュールを確定する
既存壁の補修・修復工事	既存壁の劣化部や損傷部を修復する 漏水部の発生場所確認と止水処理をする
施工部位別の工事仕様チェック	計画した仕上げに出来るか各部位の下地確認をする
住宅用設備機器・給排気換気設備等の移設	安全作業の確認をし設備機器等を移設する 設備や付帯物を固定する場合は予め受下地材を確認しておく
金属サイディングの割付	
防水テープ張り	既存壁上に防水紙を施工する (重ね代などは新築時と同じ)
防水紙張り	
胴縁の取り付け	下地が無い所や保持力不足と思われる所は 胴縁受け材を取り付け確実に胴縁を施工する
水平墨出し	
土台水切りの取り付け 開口部まわり 水切り役物の施工	土台部の出幅が大きくなる場合、小生物(虫等)が 侵入しない配慮をする・・・防虫網や多孔形状の通気材料 部位ごとの雨仕舞いと仕上がり状態を確認して施工する
出隅・入隅・見切り部などの役物取り付け	あらかじめ設定した部位の詳細施工法を確認し施工する
金属サイディングの切断・加工・留め付け	笠木等・バルコニー手摺笠木上部の防水テープを張る
金属サイディング張り仕舞い役物の取り付け	
移設した住宅用設備機器の復元	設備機器を復帰・設置した後は必ず安全作業の確認をする
給排気換気設備(換気口・フード)の復元	給排気管の長さが不足する場合がありますので工事前に確認する
各部のシーリング工事	シーリングの使用方法を守って施工する ※3-7 シーリング工事参照
各部の仕上げ確認と補整工事	工事チェック表などで施工や変更部の仕上がり確認をする
廃材処理・片付け・清掃	残材はこまめに処理し作業場の整然化を保つ 残材は分別して飛散防止対策をする
施工完了	工事廃材は産業廃棄物として適正処理する

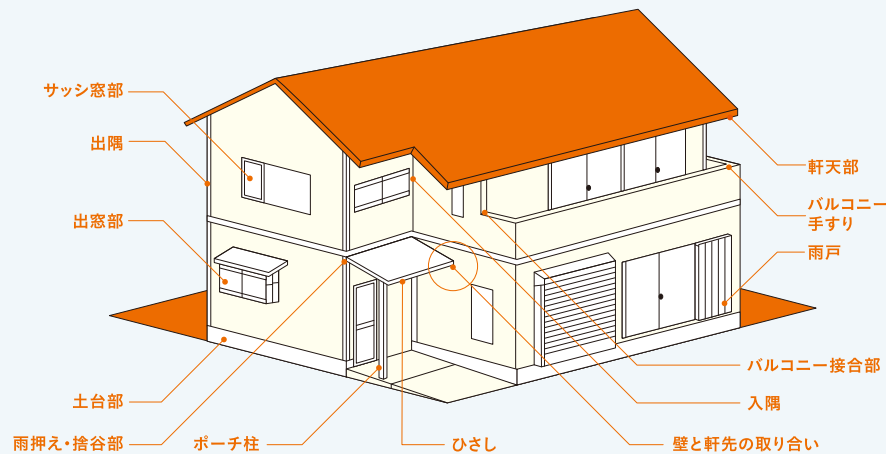
3-2. 現地調査

外壁リフォームは、工事前の既存建築物調査が重要です。

既存壁の状態、漏水の有無、不陸の確認、附帯設備等突起物の有無、特殊な納まり箇所の有無、壁面の実測、工事範囲の確認、施工現場のスペース調査等を必ず事前に確認、調査してください。

調査・点検実施例

- ◎ 既存壁の老朽度合いの調査（クラック、下地からの浮き、剥がれ）
- ◎ 既存壁の波うち、不陸度合いの調査
- ◎ 漏水部分の調査と止水措置方法の検討



部位	確認項目
全体	建物の倒れ・傾きがないか
	床面の傾斜、過度の床鳴りがないか
	雨漏れの発生がないか
	凍害の発生がないか
	基礎からの浮き・移動がないか
土台	基礎からの浮き・移動がないか
	土台の蟻道・蟻害がないか
	土台の腐朽がないか
基礎	基礎に著しい亀裂、破損がないか
	基礎に蟻道がないか
	フーチングがあるか
	床下換気口があり、通気しているか
	基礎からの高さが300mm以上あるか
外壁	外壁に反り・波打ちがないか
	外壁にクラック、破損がないか
	苔などによる汚れの発生がないか

既存建築物・外壁の状況を確認し、必要に応じ対処方法などを決めてください。
また、チェック内容の詳細は本マニュアルの末尾にあるチェックシートを参考にしてください。

3-3. 既存木造下地への胴縁留め付け保持力の確認

I 保持力の調査・点検目的

既存壁の柱・間柱に対し、胴縁の留め付け用木ねじの引き抜き保持力(1000N/本以上)があるか部位別に確認してください。
なお、保持力が不足している場合は適切な下地の補強工事を行い、金属サイディングの留め付けに支障が起きないようにご注意ください。

II 保持力の確認方法

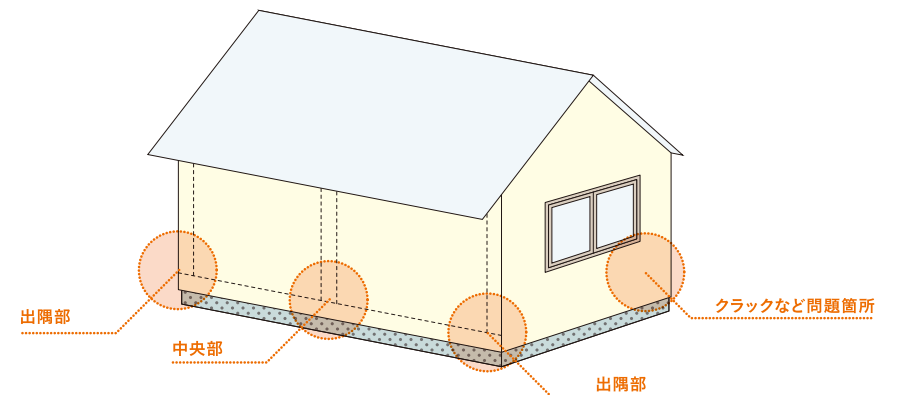
- ◎ 保持力の測定や確認は、実際に胴縁固定に使用する留め付け用木ねじで行ってください。
- ◎ 確認は現場に適した機器や方法で行ってください。……強度チェッカーを用いた保持力確認使用例

強度チェッカー



III 保持力の確認部位

- ◎ 保持力の確認は、主要部位を特定して行ってください。……主要な保持力の確認部位(下図)
- ◎ 既存壁表面の変色、カビ、クラックがある場所は必ず確認してください。
またその他漏水や結露などの不具合発生部位も行ってください。
- ◎ 既存壁表面に変化が見られない部位なども、ランダムに木ねじを試し打ちし、保持力が弱そうときは強度チェッカーで確認してください。



3-4.納まり各部の点検

■ 設備機器関連

外壁リフォーム工事で取り外すことのできない設備機器(ガス、電気、エアコン室外機など)の周辺の施工方法は予め依頼者の承諾を取ることが重要です。

また、施工方法は設備機器の形状や安全上の観点から施工者の責任で決定してください。

■ 配管などを移設しないで金属サイディングを張る場合の出幅寸法

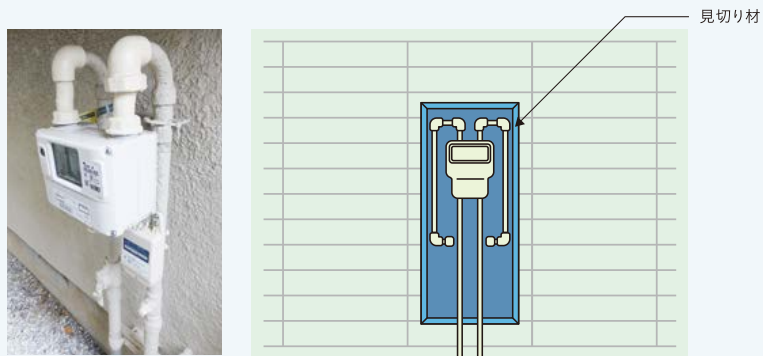
リフォーム工事で、どうしても取り外しができない配管等が設置されている場合があります。その場合、既存壁と配管との間に施工上必要な出幅寸法がないと金属サイディングが施工できません。既存壁と配管との間隔を事前に確認しておくことが必要です。また取り外しのできない配管等は損傷しないように配慮してください。

出幅寸法 = 胴縁の厚さ + 外壁厚さ (役物出幅)

① 配管・機器部の見切り施工の注意点

- 設備機器などを移設できない場合は、設備機器周囲は張らずに残してください。
- 仕上げの金属サイディングと設備機器の周囲は役物で見切ってください。
- 重ね張りしないで残した既存壁は塗装などで外観を仕上げてください。

設備機器の周囲でサイディングを見切る施工



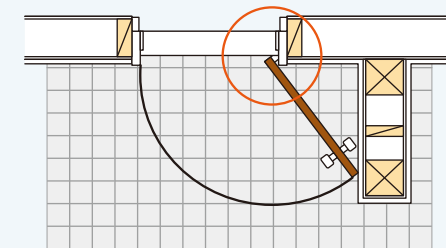
② 後付け設備施工の注意点

- 物干し、エアコン室外機等設備機器を後付けする場合は予め受け下地を施工してください。
- 金属サイディングのみで荷重支持したり、留め付け圧力がかかると脱落や変形の原因となります。

■ 取り合い事前確認例(ドア・窓部)

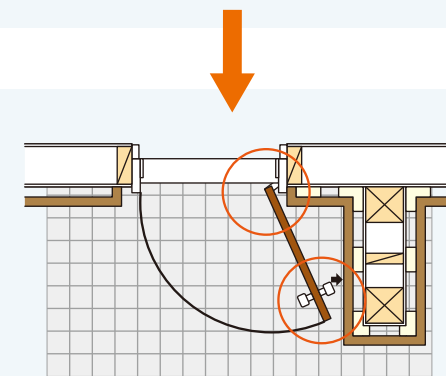
壁の厚さが増した場合の扉と壁厚さの事例

施工前の玄関ドア周り



施工後の玄関ドア周り

- 追加胴縁+金属サイディングの厚さ分の外壁厚さが増すことを予め考慮して、外壁リフォーム工事計画を立ててください。
- 金属サイディングに扉が当たらないように戸止めを設置してください。



扉の開閉幅が狭くなる場合があります。

*サッシ枠や笠木などを既存状態のまま使用し、新規サイディングを張ると壁厚さが増し、金属サイディングが既存のサッシ枠、笠木の出幅を超え、新規の外壁面より窪んだ状態になります。適切な寸法のを新規で取り付けて下さい。

3-5.防水紙の取り付け

漏水の有無を確認し、漏水が認められた場合には漏水部位の調査と止水措置方法を検討し、適切な補修を行ってください。防水紙の施工は日本金属サイディング工業会発行の「金属サイディング施工の手引き」を参考にしてください。

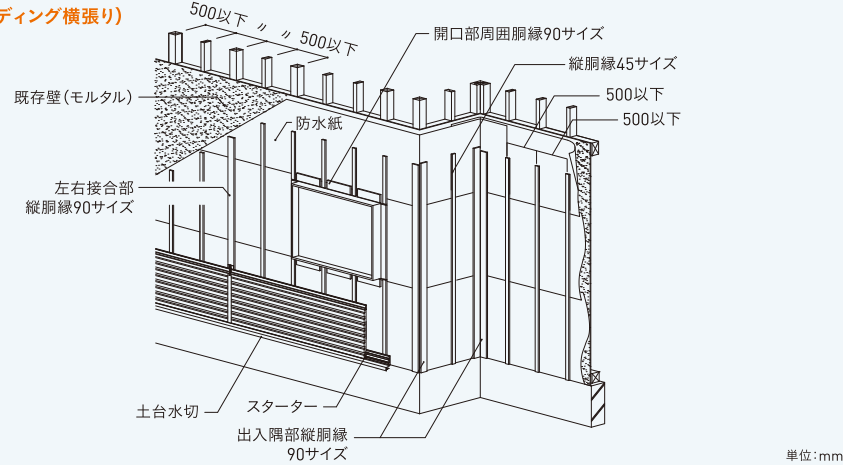
3-6.モルタル既存壁への施工

■ 通気胴縁の施工

◎胴縁：金属サイディング重ね張り工法による外壁リフォームに使用する胴縁の材質は木材とし、厚さは15mm以上かつ、十分なき保持力を有したものとしてください。◎胴縁幅：一般部の胴縁幅寸法は“45mm”程度、金属サイディング土台部、接合部、軒下部、開口部まわりなどは“90mm”程度を標準としてください。金属サイディング接合部に幅45mmの胴縁を並列使用する場合は段差がないよう取り付けてください。◎留め付け材：胴縁の留め付けに使用する留め付け材は、保持力を向上させるため木ねじを使用してください。木ねじの種類は適切なものを選定して使用してください。◎留め付け：胴縁の柱・間柱への木ねじ留め付け間隔は500mm以内を基準としてください。胴縁は通気を阻害しないよう隙間を設けて取り付けてください。胴縁の仕上がり面は凹凸がないようにし、不陸は縦・横方向共に1mあたり目通り2mm以下にしてください。

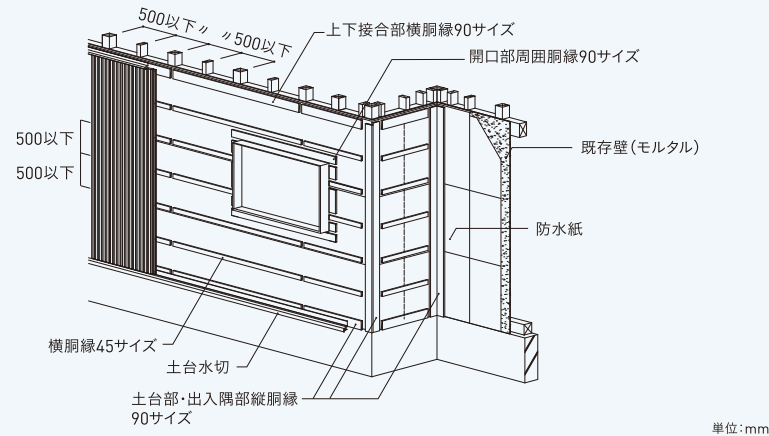
縦胴縁の場合

(金属サイディング横張り)



横胴縁の場合

(金属サイディング縦張り)

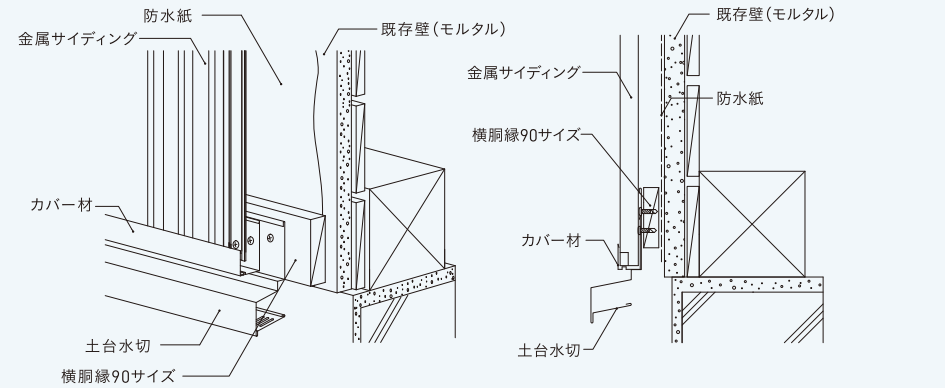


■ 本体役物の施工例

(本施工例はあくまで一例です。会員メーカーの施工方法に準じた施工をお願いします)

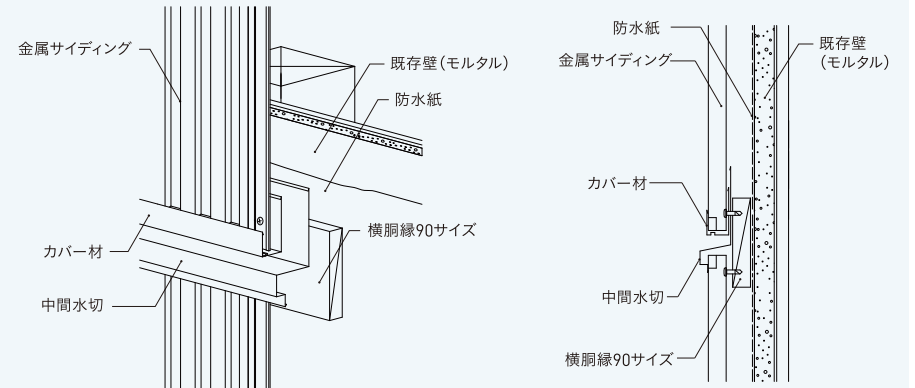
土台廻りの納まり(図は縦張り工法)

必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。



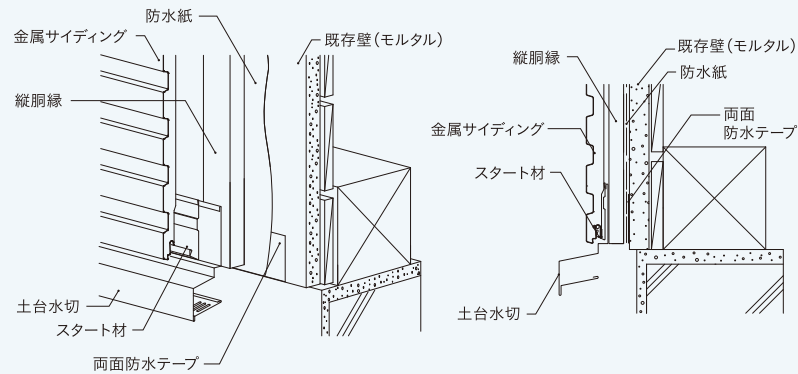
縦継ぎ部分の納まり(図は縦張り工法)

縦継ぎ部分の納めには、水切りを使用してください。また、その場合の胴縁は、倍幅または2本並べて使用してください。



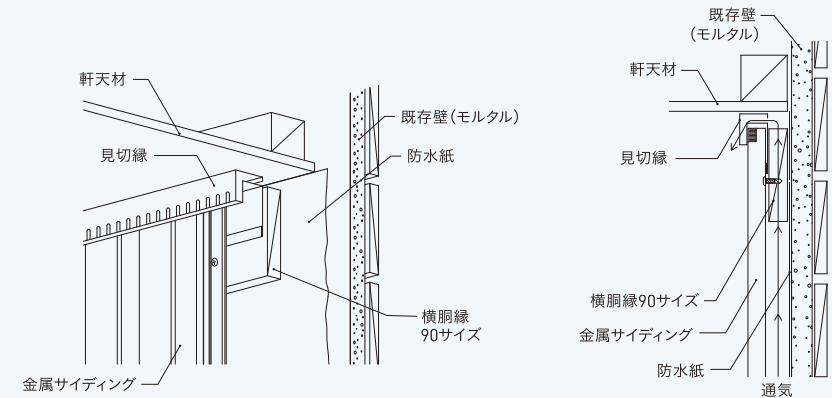
土台廻りの納まり(図は横張り工法)

必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。



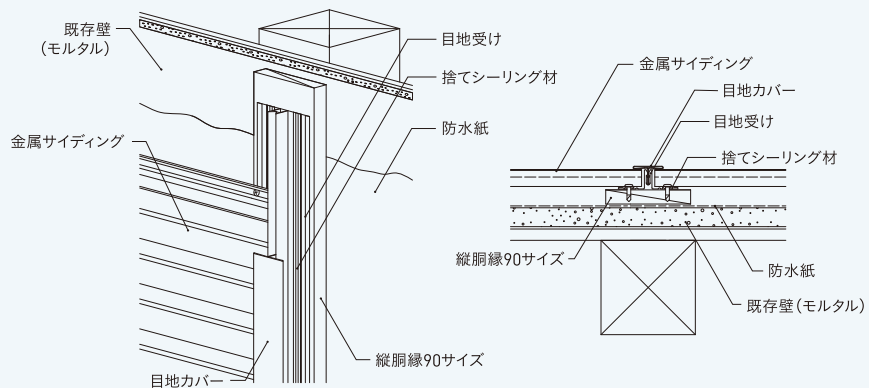
軒部分の納まり(図は縦張り工法)

軒部分の納めには、見切縁を使用してください。(通気が確保できるようにしてください)



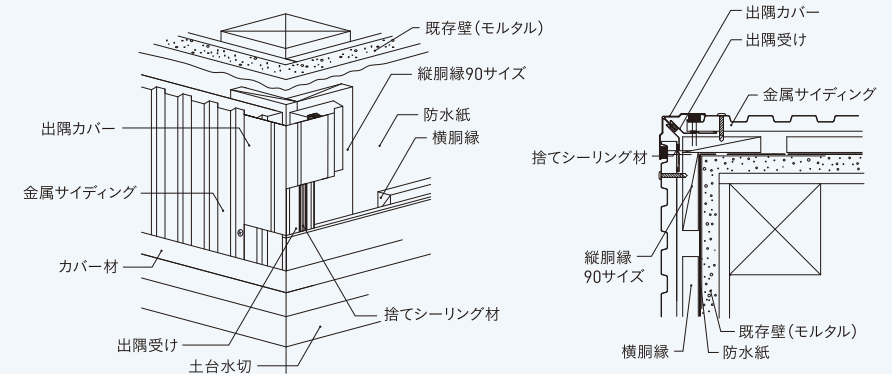
横継ぎ部分の納まり(図は横張り工法)

横継ぎ部分の納めには、部材を使用してください。



出隅部分の納まり(図は縦張り工法)

出隅部分の納めには、部材を使用してください。



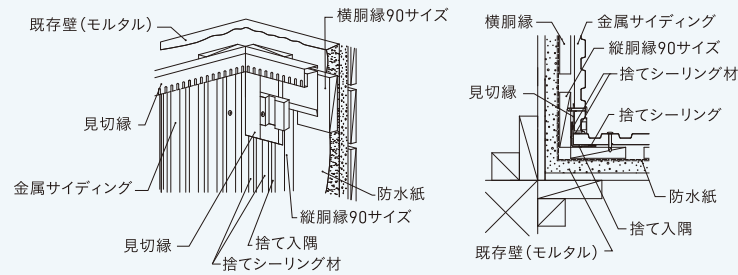
3-7. 窯業系サイディング(釘留め工法の横張り)

■ 通気胴縁の施工

◎胴縁：金属サイディング重ね張り工法による外壁リフォームに使用する胴縁の材質は木材とし、厚さは15mm以上かつ、十分なき保持力を有したものとしてください。◎胴縁幅：一般部の胴縁幅寸法は“45mm”程度、金属サイディング土台部、接合部、軒下部、開口部まわりなどは“90mm”程度を標準とってください。金属サイディング接合部に幅45mmの胴縁を並列使用する場合は段差がないよう取り付けてください。◎留め付け材：胴縁の留め付けに使用する留め付け材は、保持力を向上させるため木ねじを使用してください。木ねじの種類は適切なものを選定して使用してください。◎留め付け：胴縁の柱・間柱への木ねじ留め付け間隔は500mm以内を基準とってください。胴縁は通気を阻害しないよう隙間を設けて取り付けてください。胴縁の仕上がり面は凹凸がないようにし、不陸は縦・横方向共に1mあたり目通り2mm以下にしてください。

入隅部分の納まり(図は縦張り工法)

入隅部分の納めには、部材を使用してください。

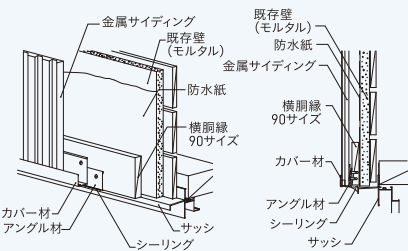


半外付けサッシ回りの納まり(図は縦張り工法)

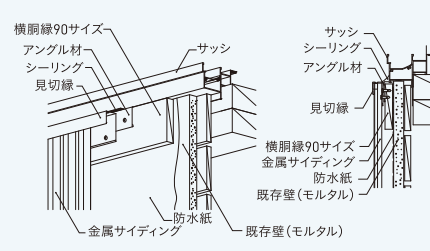
窓回り(開口部回りや換気口回りを含む)の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。

サッシと部材の隙間等には、必ず止水処理をしてください。

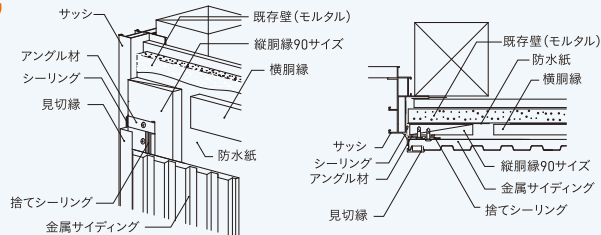
●窓回り:上部納まり



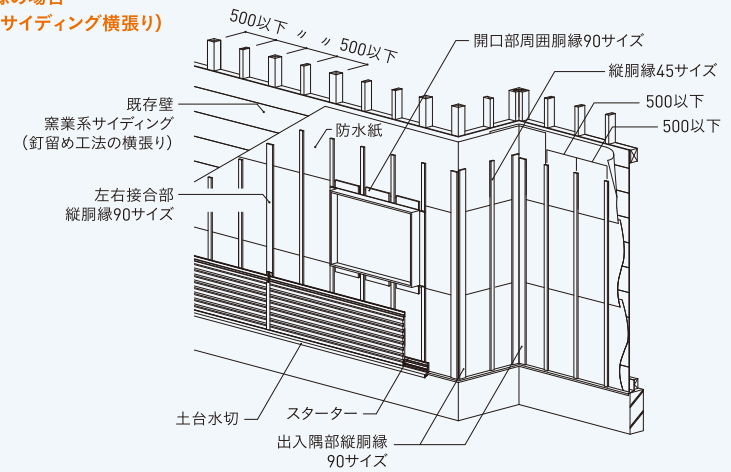
●窓回り:下部納まり



●窓回り:左右部納まり

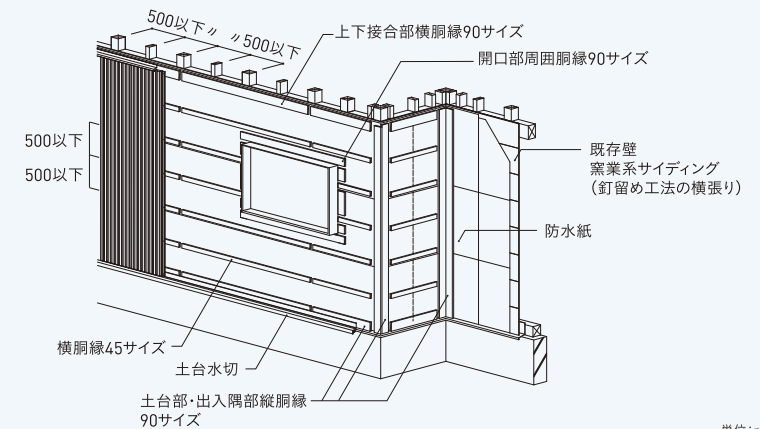


縦胴縁の場合 (金属サイディング横張り)



単位:mm

横胴縁の場合 (金属サイディング縦張り)



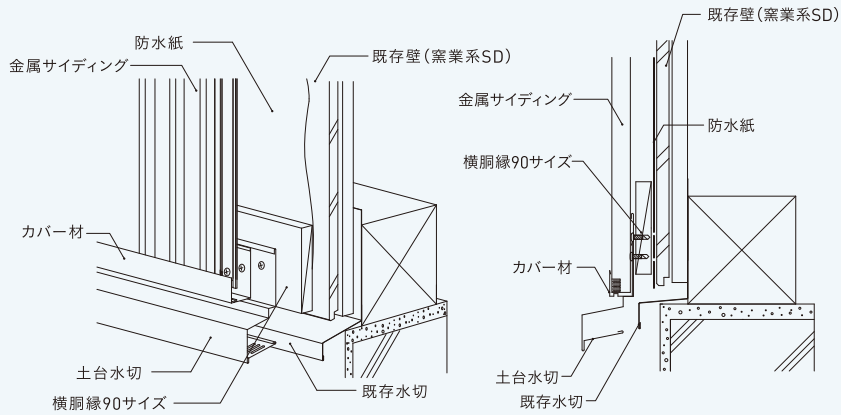
単位:mm

■ 本体役物の施工例

(本施工例はあくまで一例です。会員メーカーの施工方法に準じた施工をお願いします)

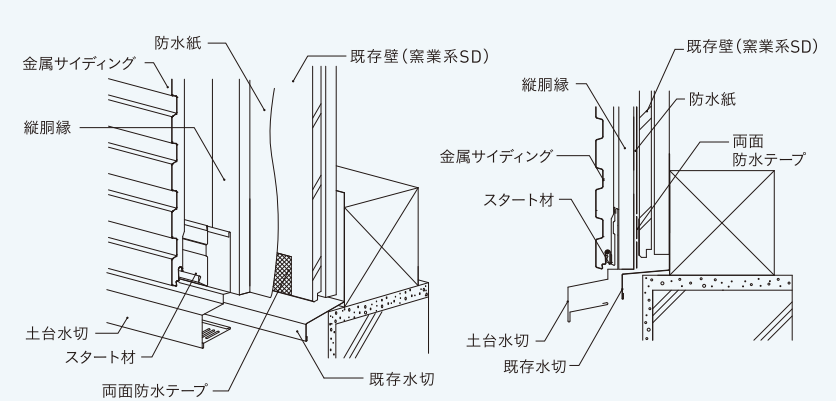
土台廻りの納まり(図は縦張り工法)

必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。



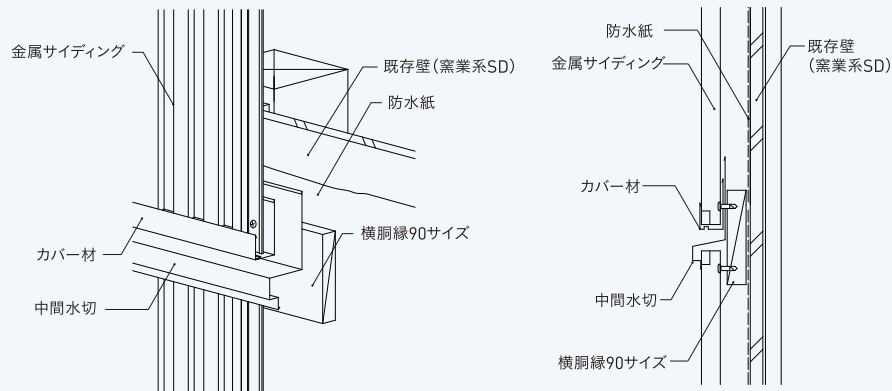
土台廻りの納まり(図は横張り工法)

必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。



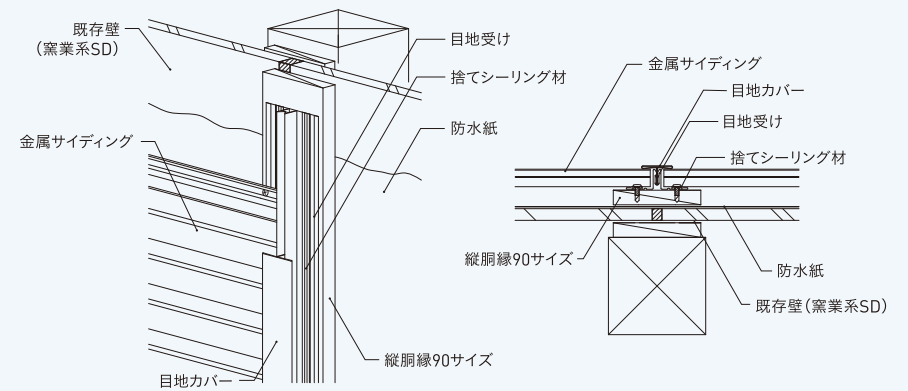
縦継ぎ部分の納まり(図は縦張り工法)

縦継ぎ部分の納めには、水切りを使用してください。また、その場合の胴縁は、倍幅または2本並べて使用してください。



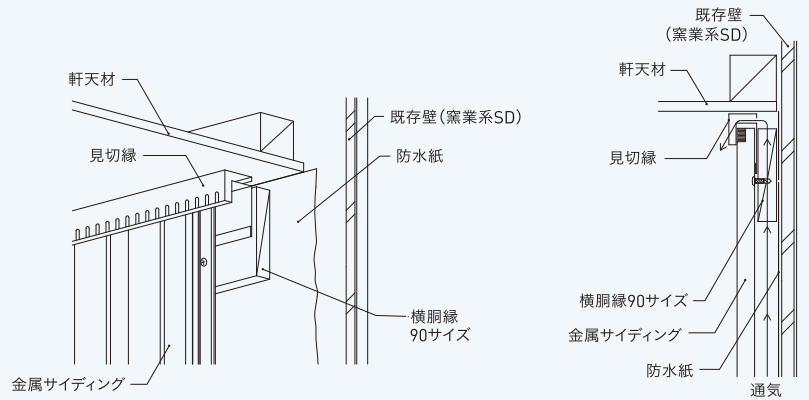
横継ぎ部分の納まり(図は横張り工法)

横継ぎ部分の納めには、部材を使用してください。



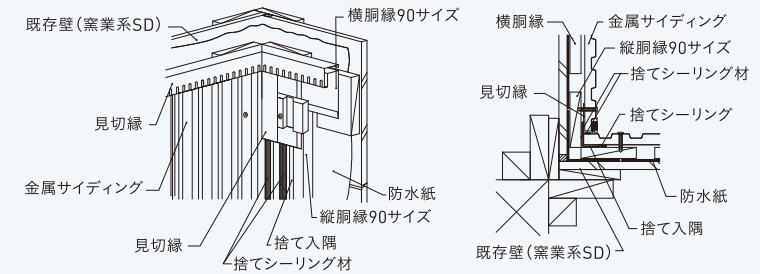
軒部分の納まり(図は縦張り工法)

軒部分の納めには、見切縁を使用してください。(通気が確保できるようにしてください)



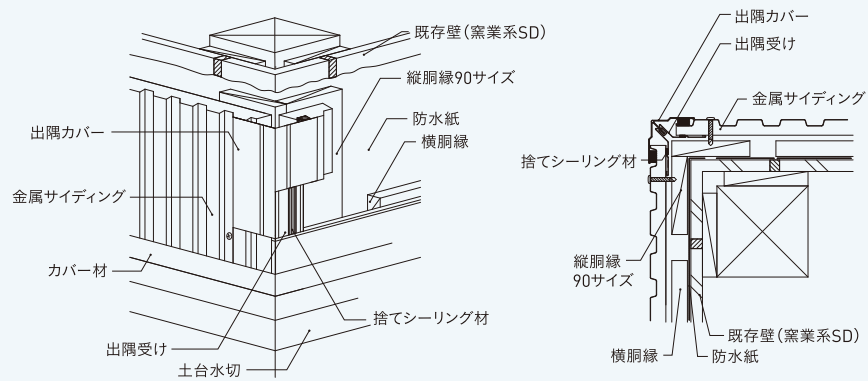
入隅部分の納まり(図は縦張り工法)

入隅部分の納めには、部材を使用してください。



出隅部分の納まり(図は縦張り工法)

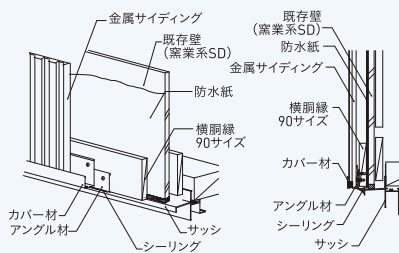
出隅部分の納めには、部材を使用してください。



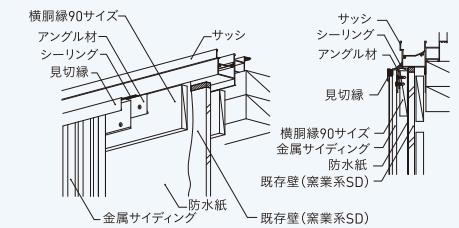
半外付けサッシ回りの納まり(図は縦張り工法)

窓回り(開口部回りや換気口回りを含む)の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。サッシと部材の隙間等には、必ず止水処理をしてください。

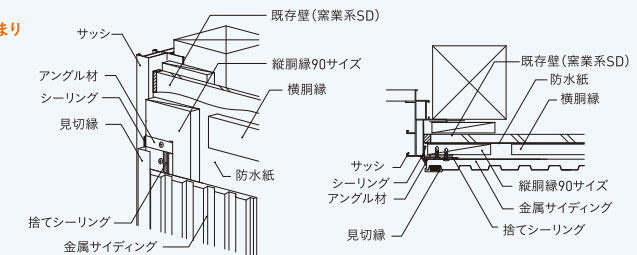
●窓回り:上部納まり



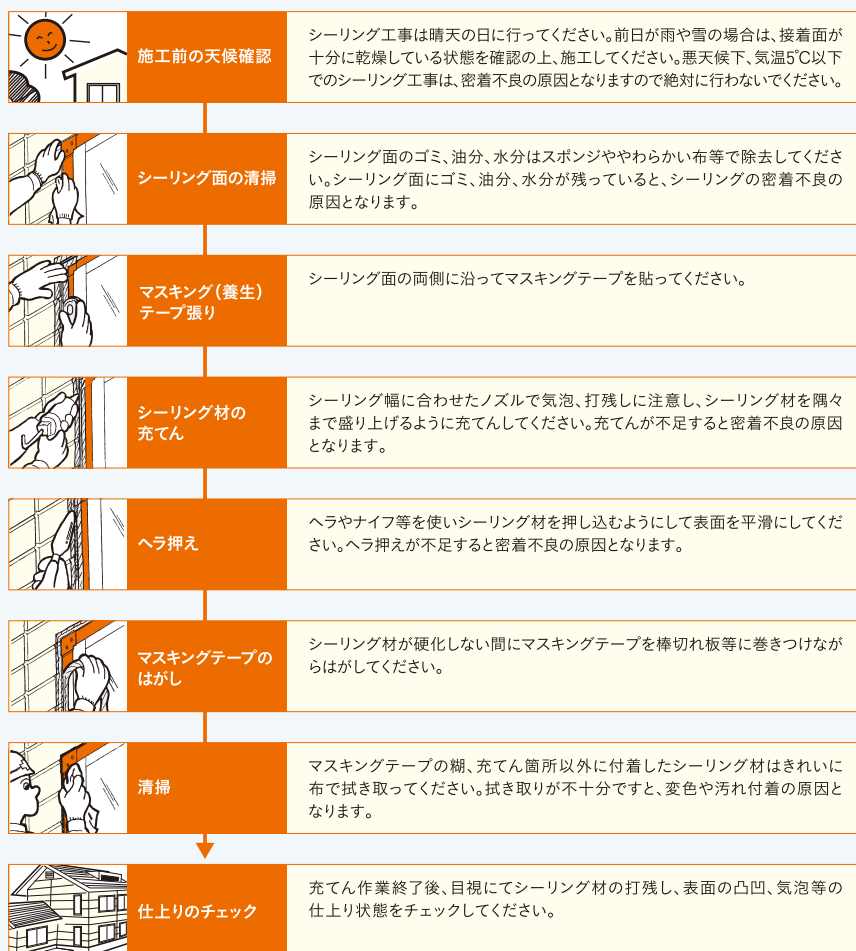
●窓回り:下部納まり



●窓回り:左右部納まり



■ シーリング工事



【注意!】プライマー処理が必要な場合があります。詳細は会員メーカーにご確認ください。

3-8.補修・点検・清掃

補修(タッチアップ等)

足場の解体時等に生じた金属サイディング表面のスリ傷、カキ傷等の補修に用いる補修塗料(タッチアップ)は、美観上の復旧を目的としております。

しかしながら、金属サイディングの色、光沢と微妙に異なる場合がありますので、次の事項に留意してください。

- ◎中性洗剤をスポンジか布に含ませて傷部分の汚れを落とし、水洗いして十分に乾燥後、補修塗料で補修してください。
- ◎必要最小面積に補修塗装を行ってください。
- ◎補修塗料を十分かきませた上、あらかじめ試し塗りをして、色の確認を行ってください。
- ◎補修塗料によっては、有効期限が定められておりますので、期限を守り使用してください。
※使用方法についての詳細は、会員メーカーにお問い合わせください。

点検

住宅設備の復帰状態、外壁リフォーム工事後の最終仕上がり状態に不備がないか確認してください。

清掃

金属サイディングについた汚れや埃は、洗い流してください。

また、水洗いで落ちない汚れ等は中性洗剤を1~2%に希釈して洗浄してください。

十分に水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取ってください。

【注意事項】

- ◎アルコール、シンナー等の有機溶剤は使用しないでください。
- ◎中性洗剤以外の酸性またはアルカリ性洗剤、クレンザー等の研磨材入り洗剤は使用しないでください。
※金属サイディングの種類によっては中性洗剤もご使用いただけない場合があります。
- ◎金属たわし、ワイヤーブラシ等の硬い材質のブラシは使用しないでください。
- ◎高圧洗浄機は使用しないでください。
- ◎過度に強くこすりすぎないでください。
- ◎金属サイディングの表面にハシゴや脚立を直接立てかけないでください。
- ◎施工中に発生したゴミやクズは必ずきれいに清掃してください。
また、残材処理等は必ず(廃棄物処理法等)に従って行ってください。

04 維持管理

日本金属サイディング工業会では、お施主様にサイディングの維持管理をしていただくために冊子「金属サイディングをいつまでも美しく保つために」をご案内しております。この冊子を参考にして適切な維持管理をしてください。



定期点検項目

部位	主なチェック項目	備考
外壁材 塗装表面	汚れ・変色・塗膜剥離 苔・藻の発生・サビ	白化、変褪色、剥離が目立つようになったときに塗り替え時期の目安です。サビが発生している箇所は、除去し補修塗料で補修してください。変褪色の程度や汚れの目立ちは、金属サイディングの種類や、色調、建物の立地条件や形状により異なります。
外壁材 本体	へこみ・変形 キズ付き・こすれ	地震発生後などは、製品本体のズレ、外れがないか点検してください。
シーリング	やせ・剥離・亀裂	シーリングは温度変化や紫外線等の自然条件及び日々の建築物の動きによる伸縮により劣化しますので、定期的なメンテナンスが必要になります。
その他	役物・部品	役物、部品の破損、嵌合部のゆるみ、はずれがある場合は、補修、交換等を行ってください。

参考01 金属サイディングを用いたモルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法のチェックシート例

既存建物 一次診断シート

部位	項目	内容	確認方法
建物全体	倒れ・傾き	㉔目視でも明らか ㉕目立たない	目視
	漏水の有無・程度 漏水箇所	㉖激しい ㉗軽微 ㉘なし ①三階・天井・窓廻り・内壁・その他() ②二階・天井・窓廻り・内壁・その他() ③一階・天井・窓廻り・内壁・その他()	施主に聴取 施主に聴取
	二階の構造(お神楽)	㉙既存平屋建てに二階を乗せている ㉚二階増築部分は鉄骨鳥居に乗っている	目視または設計図書
基礎	基礎構造	㉛布基礎(フーチングあり) ㉜布基礎(フーチングなし)	設計図書または目視
	鉄筋の有無	㉝あり ㉞なし	目視
	基礎外面のひび割れ	㉟多い ㊱少ない ㊲なし	目視
	地盤面からの高さ	㊳300mm未満 ㊴300mm以上	測定
	蟻害の有無	㊵あり ㊶なし	目視
	換気口の通風状態	㊷悪い ㊸良好	目視
土台	基礎からの浮き・移動	㊹あり ㊺なし	屋内の床下で目視確認
	腐朽状況	㊻激しい ㊼軽微 ㊽なし	屋内の床下で目視確認
	蟻害の有無	㊾激しい ㊿軽微 ㊽なし	屋内の床下で目視確認
	(浴室)高基礎の有無	㊿あり ㊽なし	設計図書または目視
外壁	ひび割れ程度	㊾太く長い ㊿短く細い ㊽なし	目視
	外壁面の浪打ち	㊿あり ㊽なし	目視
	外壁面欠損の有無	㊿大きい ㊽小さい ㊽なし	目視
	くぎ保持力	㊿1000N未満 ㊽1000N以上	別途指定の保持力検査による

参考02 金属サイディングを用いたモルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法のチェックシート例

既存建物 二次診断シート

お客様氏名
 ご住所
 ご連絡先
 新築年月日
 建物形式

項目	確認内容	結果	対応策
建築図面	平面図の有無	有・無	
	立面図の有無	有・無	
	パネル割り図の有無	有・無	
足場設置	外壁から隣地境界まで70cm以上確保されているか	有・無	
	鋼製物置が設置の障害位置にあるか	有・無	
	カーポートが設置の障害位置にあるか	有・無	
	テラスが設置の障害位置にあるか	有・無	
	後設置バルコニーが障害になるか	有・無	
	樹木・植栽が障害になるか	有・無	
既存壁状況	その他	有・無	
	漏水はないか(お客様ヒアリング)	有・無	
	シーリングの切れはないか	有・無	
	壁面の破損箇所はないか	有・無	
	壁面の不陸はないか	有・無	

項目	設置場所	総数	処理方法
ポーチライト・外部照明			脱着 交換
インターホン			脱着 交換 その他
WPコンセント			脱着 交換 その他
電気メーター			脱着 交換 その他
電気配線			脱着 交換
電話配線			脱着 交換・その他
AC室外機			現状のまま 脱着 交換
AC配管			現状のまま 脱着のみ 配管交換 配管カバー設置
ガス給湯器			現状のまま 脱着 交換
ガスメーター			現状のまま 移設 配管調整でスペース確保
ガス配管			現状のまま 移設 配管調整でスペース確保
燃焼排気管			現状のまま 移設・その他
給排水管			現状のまま 移設・その他

項目	処理方法	
破風 (m)	撤去 取り替え 現状のまま再塗装 その他 塗料:	
	幕板 (m)	撤去 取り替え その他
		軒(横)樋 (m)
縦樋 (m)		
	バルコニー (m)	
		ガラリ (m) (ヶ所)
換気フード (ヶ所)		
	通気孔 (ヶ所)	
		格子 (m)
霧除け・庇 (m) (ヶ所)		
	軒天 (m) (ヶ所)	
		雨戸 (枚)
鏡板 (ヶ所)		

調査会社名:
 調査者氏名:
 調査日:

参考03 金属サイディングを用いたモルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法のチェックシート例

①事前確認～下地処理のチェック

工事着工(年 月 日)～工事終了(年 月 日)

住宅所有者(予定): 様邸 建設会社(元請)様
住所: 工事業者様

工程	チェック箇所	チェック項目/基準	記入日	判定	判定者確認	不具合場所	不具合内容	改善内容	元請確認	備考
用途制限		禁止事項								
		・傾斜のあるバラベツト								
		・常時水のかかる場所や水蒸気の発生する場所								
		・裏面から水のかかる場所(塀など)								
		・集合煙突								
積雪地対策	軒の出	455mm以上が望ましい								
		土台高さ	600mm以上が望ましい							
		雪割加工	やむを得ず屋根面が外壁にあたる部分の軒先は雪割加工							
通気	胴縁補強	積雪高さまでの胴縁ピッチは303mm以下とする								
		吸排気口								
サッシの確認		室外側に透湿防水シート								
換気口の選択		内付け、半外付け、外付けタイプなど								
胴縁	換気口の選択	外付けでロングノーズタイプのものか								
		材質								
		ピッチ								
		サイズ								
		配置								
防水紙	受け材	不陸								
		不陸	不陸は目通り2mm以下となっているか							
		留め方	胴縁は指定通りに(くぎ本数等)留め付けられ、割れたりしていないか							
		ピッチ	胴縁のピッチは500mm以下となっているか							
		サイディング接合部・土台部・出入隅部	胴縁の幅は90mm以上(ダブル幅)となっているか							
開口部まわり	通気の確認	役割が固定できるよう90mm以上の胴縁が適切に取り付けられているか								
		サッシまわりの胴縁と周囲の胴縁は通気が取れるよう30mm程度の隙間が確保されているか								
		土台部、下屋根部の空気は適切に確保されているか								
積雪地域	積雪高さまで下地の補強はなされているか	軒裏部、小屋裏部当の空気は適切に確保されているか								
		壁当たり軒先部の雨押え板金、壁止まり部材は適切に施工されているか								
ジョイナー類	取付け部等	ベランダ、バルコニー等の取り合い部分の水切、防水テープ等で雨仕舞いはよいのか								

参考04 金属サイディングを用いたモルタル/窯業系サイディング既存壁重ね張り工法のチェックシート例

②サイディング工事のチェック

工事着工(年 月 日)～工事終了(年 月 日)

住宅所有者(予定): 様邸 建設会社(元請)様
住所: 工事業者様

材料の確認	金属サイディング本体1()	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	金属サイディング本体2()	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	サイディング留め用くぎ・ビス1	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	サイディング留め用くぎ・ビス2	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	防水紙	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	防水テープ	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	シーリング材	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	補修塗料	メーカー:	品番:	ロット番号:						
	その他の役物()	メーカー指定品()								
	その他の役物()	メーカー指定品()								
その他の役物()	メーカー指定品()									
工程	チェック箇所	チェック項目/基準	記入日	判定	判定者確認	不具合場所	不具合内容	改善内容	元請確認	備考
サイディング留め付け	保管	シート等が養生されているか、水漏れが発生していないか								
		パレットの上に置かれているか、または正しく梱木され、変形、汚れ等はないか								
	留め付け	各社指定又は推奨のくぎまたはビスで留め付けられているか								
		くぎの浮き、傾斜、打ち損じ(胴縁から外れる)はないか								
	切り欠き部等	切り欠き部に切り込み過ぎはないか								
全体		目立つ反りはないか								
		金属サイディングの動き幅はでているか								
		縦、横とも目地の通りは良いか(mm以内)								
補修塗装		その他()								
		くぎ頭の目立つ部分の補修は、最小範囲の補修であるか								
その他特殊な納まり等		補修塗料の塗装仕様はメーカーの指示通りか								
		補修忘れはないか								
その他特殊な納まり等		既存配管まわりの防水処理は実施したか								
		その他()								

③シーリング工事のチェック

住宅所有者(予定): _____ 様邸 建設会社(元請)様
 住所: _____ 工事業者様

工程	チェック箇所	チェック項目/基準	記入日	判定	判定者 確認	不具合 場所	不具合 内容	改善内容	元請確認	備考	
工事期間	工事着工(年 月 日)～工事完了(年 月 日)										
施工時天候	初日	(晴れ、曇り、雨 : 気温 °C)									
	2日目	(晴れ、曇り、雨 : 気温 °C)									
	3日目	(晴れ、曇り、雨 : 気温 °C)									
材料の確認	金属サイディング本体1()	メーカー: 品番: ロット番号:									
	金属サイディング本体2()	メーカー: 品番: ロット番号:									
	シーリング材1	メーカー: 品番: ロット番号:									
	シーリング材2	メーカー: 品番: ロット番号:									
	プライマー1	メーカー: 品番: ロット番号:									
	プライマー2	メーカー: 品番: ロット番号:									
シーリング工事	気象条件	外気温度は5°C以上かつ、 被着面の温度は50°C以下であるか									
	プライマー 施工	プライマー使用時は メーカー指定のプライマーを 所定量塗布し、所定時間乾燥させたか									
		プライマー塗布後、所定時間内に シーリング材を充填したか									
	充填	シーリング切れ、充填不足、 打ち忘れ等はないか									
		へら押さえは十分で、 仕上がりは美しいか									
	仕上げ	マスキングテープの剥がし忘れ、また、 シーリング材のはみ出し等はないか									
	シーリング材 を打たない 部分の納まり	土台水切部分、下屋根の雨押えと サイディングの取り合い部分等は 10～15mmの隙間が確保されているか									
その他 特殊な 納まり等	その他特殊な納まり等 () ()										

